

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	高知県土佐市高岡甲1684番地5		
自己評価作成日	令和3年6月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者が住み慣れた地域の中でゆったりと安心して生活できるよう、日々いたわりと優しさをもって接する取り組みを行っています。利用者同士も、和気藹々で楽しく暮らしています。  
町内会にも加入し、地域との交流を一層深め、家族の協力を得ながら、ともに支え合っていけるような事業所を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Jigvosvg">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Jigvosvg</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年8月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、道路を隔てて水路が流れ、周辺には民家や田畑が広がる静かな環境に位置し、平屋建ての落ち着いた佇まいとなっている。  
1ユニットの事業所には現在9名の利用者がおり、理念に沿って、地域の中で一人ひとりゆったりと安心して生活できるよう、いたわりと優しさを重視した支援を受けながら、自由に生活している。近隣住民とは親しく交流しており、季節の野菜や花のお裾分けもあって、利用者は隣家からの柿のお裾分けを楽しみにしている。利用者の平均年齢は92歳を過ぎているが、できることは自主的に、また、好きなことは自由に行えることを支援して、日々の生活を楽しんでいる。  
職員は利用者の立場に立った支援を行い、家族からも厚い信頼を得ている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングや職員会を通してケアについて話し合い、地域密着型サービスの意義と事業所理念に関して職員同士で意見を出し合っており、理念のケアへの実践につなげている。	玄関には、利用者が毛筆で書いた理念が掲示されている。職員は、スタッフ会等で振り返りの話し合いを行い、日々の支援では理念に沿った利用者への接し方や話し方を心がけて、理念の実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入し、地域の一斉清掃、自主防災訓練への参加などを通して地域との交流を深めてきた。時には、花の苗や花を届けてくれることもある。	地元自治会に加入し、一斉清掃や防災訓練に参加して交流を深め、地域の情報を得ている。普段の暮らしの中でも、季節の花や野菜をお裾分けしてもらったりして、親しく付き合ってきている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問や運営推進会議の開催等で地域住民と交流する機会を持ち、利用者、認知症高齢者への理解につなげるようになってきた。現在はコロナ禍のため、交流は控えている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では議題に基づいた話し合いや意見交換を行い、サービス向上に活かしている。現在コロナ禍のため運営推進会議は開催しておらず、定期的に利用者状況等の運営報告書を運営推進会議メンバー、家族に送っている。	コロナ禍で運営推進会議は開催できていないが、会議に代わる報告書として、事業報告やケアの実施状況報告を運営推進会議メンバーや家族に送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の講習への参加や、運営推進会議などを通して相談したり、助言を受けたりしながら協力関係の構築に努めている。また、市に直接電話等で連絡を行い、助言をもらっている。	市からは、困難事例の相談やコロナウイルスについての説明や対応方法、災害時の避難等について相談助言を得ている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には研修を通じて身体拘束をしないケアを周知してきており、利用者が出来る限り自由に暮らしていけるよう、見守りを重視したケアに努めている。また、定期的に身体拘束をしないケアの工夫についてや、個々のケアのあり方についての話し合いも持っている。	身体拘束に関する研修の受講職員は研修報告を行い、職員間で共有している。利用者は事業所内で自由に過ごすことができる一方、夜間等の安全確保のため家族と相談してセンサーマットを設置したり、カーテンに鈴をつけたりして、見守りと安全の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待防止関連法、高齢者虐待防止の研修に参加し、また、日々の生活の中では利用者一人ひとりの身体状況を観察し、変化があれば報告して、話し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高知県社会福祉協議会主催の研修があれば参加し、受講内容を伝達して職員で共有するとともに、制度利用が必要な際には、関係機関に助言をしてもらいながら、活用できるようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の読み上げを行い、不安や疑問点等について説明を行うように心がけている。また、担当者会等でも家族の思いを聞き説明を行い、理解と納得が得られるように努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会や年に2回の家族会を設け、出来るだけ家族の意見要望を聞き、運営に反映できるように努めている。現在はコロナ禍のため、担当者会等は電話で意見交換をしている状況である。	玄関に意見箱を設置し、担当者会や家族会で利用者や家族からの要望や意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。苦情解決については重要事項説明書に記載し、入所時に説明している。コロナ禍で、現在電話での対応となっている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会や日々のミーティングにおいて運営に関する職員の要望や提案を聞き、運営に反映させている。	職員意見は、職員会や休憩時の会話の中で要望や改善策が提案され、実施を検討している。代表者は、個別の話し合いにも応じて意見を述べやすく、現場の改善にも協力的である。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状態を把握し、必要に応じて育児休暇や傷病手当、労災などの手続きを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修を受ける機会を設け、研修報告書の提出と発表を通して、共に学び個々の知識の向上に努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との情報交換を行い、交流の機会を設けてネットワーク作りに取り組むよう努めている。コロナ禍の現在は、電話での情報交換が主となっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の要望や不安を聞き取り、改善し、解決できるよう、家族の協力を得ながら本人が安心できる生活の確保と、信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会や家族会、日々の話し合いなどを通して家族が困っていること、不安や要望について話し合いながら進めていける関係づくりに努めている。また、毎月手紙で利用者の情報を伝えている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際は家族に説明し、また、家族の困っている事柄についても意見交換をしながら、ともに協力し合う関係づくりに努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に笑い、助け合いながら、愛情をもって家族の一員として接し、共に生活していく者同士の関係づくりを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者と家族の関係を大切にしながら、家族の協力を得て共に支え合える関係性を築いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容院、馴染みの飲食店など、家族の協力を得ながら、そのつながりが出来るだけ継続できるよう努めている。現在はコロナ禍のため、手紙や電話でのやり取りが主となっている。</p>	<p>コロナ禍で知人友人の訪問はないが、以前は訪問もあり、居室で楽しく過ごしていた。利用者は高齢でもあり、出かけることがしんどいと訴えることが多くなったが、気分転換を兼ねて馴染みの場所へのドライブに誘っている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は利用者同士の人間関係を把握し、トラブルが起きないように仲裁に入ったりして、利用者が孤立しないよう配慮している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も年賀状やお見舞いなどを続け、必要に応じてその後の現状把握に努めている。家族によっては、連絡を入れて近況を教えてくれることもある。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、利用者の言動からその思いを汲み取り、意思疎通が困難な場合は表情やしぐさ、家族からの情報などを得て、職員同士話し合いながら、本人本位の支援が行えるよう努めている。</p>	<p>殆どの利用者が自分の思いを伝えることができるので、会話で意向を確認している。言う人はしっかり要望を言うが、言わない利用者もいて、普段の会話や態度、家族からの情報で、一人ひとりの思いを把握するように努めている。</p>	<p>利用者の思いや意向の把握に関する記録が不明で、その変遷も分からないため、記録について検討し、ケアプランに活かすことを期待する。</p>
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者のアセスメントや、その後の聞き取りなどを参考に、サービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状況、有する力等の現状は日々の生活の中で観察し、ミーティング等で職員間で意見交換を行って共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員を決め、アセスメントを行い、3ヶ月毎の担当者会で家族からの要望や現状報告等を行い、必要なケアについての介護計画書を作成している。	ケアプランは、3ヶ月に一度家族の意見も踏まえて見直している。利用者個々の担当職員は決められているが、職員全員が受け持ちだと言う思いで、ケアプラン策定に臨んでいる。利用者の状況に変化があれば、その都度見直しを行っている。	ケアプラン上で利用者の意向が不明なので、把握したことを明記し、検討して、変えプランに反映させることを期待する。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録、申し送りノート、医療ノート等に記録し、ミーティングで情報共有して、ケアの統一化を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、要望を聞き、できる範囲で既存のサービス以外の通院受診、手続き等の代行を行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問や他の施設のイベントへの参加などを通して、利用者が豊かな暮らしを楽しめるように支援している。現在はコロナ禍で中止とせざるを得ないが、できることを模索している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、納得が得られたかかりつけ医との関係性を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の変更もあり、利用者、家族の希望に沿って主治医を決めている。協力医の往診利用者は6名で、外来受診も家族の依頼があれば職員が同行していたが、コロナ禍のため現在は家族の同意を得て職員が同行している。情報提供や受診結果等は医療ノートを利用し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護及び協力病院等の看護師に現況を説明し、報告、相談をしながら適切な受診が受けられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者のアセスメントやその後の聞き取りなどを参考に、サービス利用の経過等の把握に努めている。状況等を関係機関と情報共有し、安心して治療が受けれるよう支援している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時の対応については、家族に現況説明や今後起こりうるリスク等について説明している。また、事業所で出来ることも説明しながら、方針を共有しチームで支援している。	「看取り介護の指針」はあり、入所時に説明している。重度化の際には利用者と家族の意向を確認し、家族の協力を得ながら対応するが、これまで最終的には入院が希望され、事業所での看取り介護の実績はない。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	簡単なマニュアル作成とともに、ミーティングや職員会を通して初期対応などの実践に活かせるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での防火防災訓練、地域の自主防災訓練への参加を定期的に行い、地域の協力が得られるような関係性を築けるようにしている。	事業所の防災訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導を受けながら実施している。近隣住民の訓練参加はないが、平日頃から気にかけて、有事には声かけをしてくれている。水、食料等の非常用物資は3日分を保管し、適切に期限管理がされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の声のトーンや言動について日々注意し合いながら、日々のケアにあたっている。	利用者は全員女性で、言葉かけにも注意し、排泄や更衣や処置等も居室で行い、利用者のプライバシーに配慮した介護が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に関しては、可能な限り自主決定ができるよう、家族にも相談しながら支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者側に立ったケアを目指し、ミーティングで話し合い、方向性を決めて取り組んでいる。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得ながら、その人らしい身なりやおしゃれが出来るように支援している。コロナ禍で外部からの美容師受け入れを中止していることから、整髪など、家族の了承を得て事業所で可能なことを実施している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、愛情を込めた手作りの食事を心がけている。利用者も、準備や台拭きなどを出来る範囲で行っている。	献立には利用者の希望を取り入れ、調理師免許を持つ職員2人が献立し、その日の早出遅出の職員が調理している。利用者個々の食事の状態に合わせて、食事の形態等を臨機応変に変えることもある。利用者も、できる範囲のことを職員と一緒にしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表を作成し、状況を見ながら個々に応じた支援をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアや見守りを行い、必要な利用者には歯科訪問で口腔ケアを依頼し、清潔保持を心がけている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントや日常生活の中で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけおむつを使用しないよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は個々の排泄パターンを生活記録に記載して共有し、自立に向けた支援をしている。5名は布パンツで、うち3名は排泄自立しており、残る4名は排泄介助しているが、おむつ使用者はいない。排泄を訴えない利用者は、仕草から兆候を察して誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量、形態にも注意しながら、毎日の体操、散歩、歩行訓練などを行い、また、医師にも相談しながら個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には2日に一度に設定はしているが、利用者の希望に応じて臨機応変に対応している。	入浴準備は毎日行い、利用者は平均週2、3回入浴しているが、回数や時間帯も状態に応じて利用者、家族の希望に応じている。入浴拒否者には、聞き方にも注意しながら無理強いすることなく、日にちを変更する等の工夫で入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を重視しながら、その時の状況に応じて休憩を促したり、安心して眠れるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々の状況を医師に相談し、その指示の下で薬のセットを行い、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが喜びを見い出せる日々が過ごせるよう、全員が女性であり、祖母の力を活かせる役割や嗜好を見つけ、気分転換を図っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら、利用者の希望に沿って、出来る範囲で外出支援をしている。	独歩が5名、車いす使用が4名だが、利用者に応じて無理のない範囲で、希望や体調、その日の天候も見ながら散歩の支援をしているが、一年を通じて猛暑、厳冬の時期には控えている。コロナ禍で家族の面会も窓越しのため、家族による外出も控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望でお金を所持し、使用に関しては職員が買い物を代行している。コロナ禍のため、一緒に買い物に出かけることは控えている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方に自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が、利用者にとって迷いや混乱を招くような刺激がないよう、生活感、季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう支援している。	共用空間はワンフロアに集約され、手狭な感じだが、使い勝手が良いように家具等の配置も工夫され、居心地よく過ごせるようになっている。壁一面の季節感のある飾りつけも、職員が毎月交代で作り、利用者の目を楽しませている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、利用者が自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族や本人と相談しながら、使い慣れた物や好みを活かした物を持ち込んでおり、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	居室内には自宅で使い慣れた家具、自作の絵画や工作物写真等が飾られ、利用者の個性が窺え、居心地よい空間となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「出来る事」「分かる事」を活かして、時々職員が見守りをしながら、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名：

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				